

所属	農学生命科学部	氏名	川崎通夫
課題名	異なる気温下での大気中高濃度CO <sub>2</sub> が青森県在来エダマメ「毛豆」とイモ類の生産性に及ぼす影響に関する研究		

1. 概要

近年における地球温暖化や異常気象の多発化は、作物生産を行う上で大きな懸念や問題となっている。そのため作物の環境変動下における影響を理解することは、持続可能な作物生産方法の開発や有効な作物品種の育成を検討する上で重要である。しかしながら、青森県の基幹作物であるナガイモや北東北地域におけるイモ類作物においては、地球温暖化やそれに関連する環境変動が与える影響に関する知見が限定的である。また、青森県の在来で主要なエダマメである「毛豆」においては、近年、ブランド化などの地域振興の資源として期待されているが、環境変動の影響に関する知見は少ない。

そこで本研究では、高気温を含む異なる気温条件下での大気中の高濃度二酸化炭素がナガイモ、サトイモなどイモ類および毛豆の生産に及ぼす影響を明らかにすることを目的として実験を行う。加えて、本研究から得られた知見をもとにして、青森県におけるナガイモを中心としたイモ類作物と毛豆の持続可能な生産に向けた将来の適応策を提案することも目標としている。

異なる気温下での大気中高濃度CO<sub>2</sub>が青森県在来エダマメ「毛豆」とイモ類の生産性に及ぼす影響に関する研究  
農学生命科学部 国際薬芸農学科 川崎通夫

背景

・近年の地球温暖化や異常気象の多発化は、作物生産を行う上で大きな懸念や問題となっている。

・作物の環境変動下における影響と障害発生メカニズムを理解することは、持続可能な作物生産方法の開発や有効な作物品種の育成を検討する上で重要である。



・青森県において基幹作物であるナガイモや温暖化により栽培適化の可能性があるサトイモ、および、青森県在来の毛豆において、地球温暖化や大気中高濃度CO<sub>2</sub>が与える影響に関する知見は限定的である。

目的

・異なる気温下で大気中の高濃度のCO<sub>2</sub>がナガイモ、サトイモおよび毛豆などに及ぼす影響と障害の発生メカニズムを明らかにすることを目的として実験を行う。

・青森県におけるナガイモ、サトイモおよび毛豆などの持続可能な生産に向けた環境変動に対する適応策を提案することも目標としている。

(1) 本研究の概要

2. 画像の説明

(1) 本研究の概要